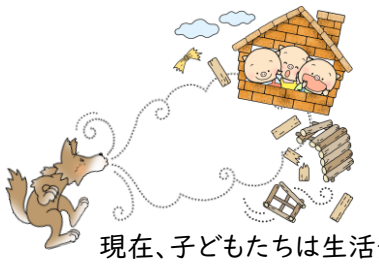

2月号　ささやまっこだより

令和８年２月２日
篠山保育園　園長　足立善一郎

現在、子どもたちは生活発表会にむけて活動が盛り上がってきています。もも、ふじ、ばら組さんは、自分たちだけで楽しむことから、それを人に観てもらいたいという段階に入ってきています。先日、劇の練習を見に来てほしいと声がかかり、保育室に近づくと「誰もいないのかな」と思うほど静かで、保育室をのぞくとすでに準備万端！役になりきり配置していました。子どもたちの表情も様々。張り切っている顔、緊張で顔が少々こわばっている顔、はずかしさで下向き加減の顔とその子らしさがでていました。しかし、劇が始まると、自分の出番を意識して構え、「さあ　いくよ」とばかりに友だちに声を掛け、手をつないで前に出て楽しそうに歌い踊っている姿を見ると“みんなお姉さんお兄さんになったなあ”と実感しました。これから更に生活発表会に向けて、一人ひとりが自分の課題を乗り越えて成長していくことを期待します。さくら組さんは、クラスで楽しんでいるお話の一場面の掛け声、「うんとこしょ、どっこいしょ」が保育室から聞こえてきます。すみれ、たんぽぽ組さんもお話の世界と日頃の遊びが合体し、そこに大道具や小道具が加わり楽しい表現が繰り広げられることでしょう！

２月の行事予定

３日(火)　節分豆まき(3 才以上)
１０日(火)　リハーサル(もも、ふじ、ばら組：9 時迄の登園)
１２日(木)　リハーサル(さくら組：通常登園)
１７日(火)　すみれ・たんぽぽ組表現あそび撮影
１８日(水)　卒園記念集合写真撮影(ばら組)
１９日(木)　避難訓練
２０日(金)　生活発表会準備(早めにお迎えいただくと助かります)
２１日(土)　生活発表会、園内研究会
２５日(水)　誕生会

21 日は、すみれ・たんぽぽ組さんは家庭保育をお願いします。

２，１６日…えいごであそぼう(ばら組)
９日…えいごであそぼう(ふじ組)

３月の行事予定

３日(火)　ひな祭りお茶会(もも、ふじ、ばら組)
１０日(火)　誕生会
１７日(火)　卒園式リハーサル(ばら組)
１８日(水)　お別れ会
１９日(木)　卒園式・入園式準備
２１日(土)　第 48 回卒園式/第 49 回入園式
園内研究会
２４日(火)　避難訓練
３１日(火)　新年度準備

21 日は、家庭保育をお願いします。

通常保育ですが、ご都合のつかれる方は早めのお迎えにご協力ください。(午後４時以降)

９，２３日…えいごであそぼう(ばら組)
２，１６日…えいごであそぼう(ふじ組)

わくわくタイム

一年の後半になってくると、異年齢のクラスの友だちとも遊べるようになってきます。そこで、クラスの枠をはずして異年齢の友だちとの交流「わくわくタイム」を行いました。1 階保育室は、もも、ふじ、ばら組を合体し、各クラスにボーリングや魚釣りコーナー、せいさくコーナー等がありました。年長のばら組さんがゲームを仕切ったり、せいさくコーナーではもも組さんにやさしく教えてあげてくれたり、年上パワーを出していました。

２ 階保育室は、たんぽぽ組とさくら組を合体。ジャンピングコーナー、お絵かきコーナー、のりものコーナー等好きなところで遊びました。同じ遊び物でも違う所に設置されると、さらに遊び心をくすぐられるようです。

― 人を信じ、自分を信じる子どもに ―

★“子どもを叱るとき”　叱らないで、言い聞かせる

『基本的に、親が子どもを叱る場合、子どもを正しくしつけようと思ってのことが普通です。私は各地で継続している保護者会や母親の会などの場で、一週間だけでよいから、子どもを一度も叱らないでいることを提案しています。それは当然、子どもに何事も好き放題させることを意味するわけではありません。腹を立てて叱ったりする調子ではなく、本当の意味で穏やかに、言い聞かせるように、だめなことはだめと伝えるのです。強い感情で声を荒げるのは避けることです。これを実行できる母親は、けっして多くはありませんが、実行できた母親は、ほぼ確実に「子どもが穏やかになり、むしろ聞き分けもよくなった」と語るのです。多くの母親は、叱ることが子どものしつけや教育として必要だと考えています。その一方では、その効果や結果が思いどおりにはいかないことを、経験的に理解しています。しかし、叱らないでいることが、なかなかできないのです。もう少し深く考えますと、子どもを叱っている時、子どものためにと思いながら、実際には親自身の感情や衝動の自制ができないで叱りつけていることが多いのです。そういう叱り方が、子どもの教育、しつけ、情緒や社会性の発達などのために、よい影響を与えないことは明らかです。（中略）　人間は誰もが感情的な面を持ち合わせています。相手が子どもといえども、自尊心のことまで冷静に考えながら叱るということは、なかなか困難です。しかし平素、子どもを育てる場合、その自尊心を傷つけることは、最大限に努力をして避けなくてはなりません。日ごろから、それを自分に言い聞かせておくことで、どうしても叱らなければならない時には、必要な配慮や手加減ができると思います。』　　佐々木正美　著「はじまりは愛着から」より

これは父親も私たち保育者も同じことです。冷静になって子どもに語りかけていくと子どもたちは聞く耳を持ってくれます。この積み重ねで大人と子どもの信頼関係が少しずつ強くなっていくように感じます。